

令和8年度

大学院要覧

浜松医科大学大学院医学系研究科
医学専攻（博士課程）

目 次

・ 目 的	1
・ 教育目標	1
・ ディプロマ・ポリシー	1
・ カリキュラム・ポリシー	2
・ 専攻の概要	3
・ 研究指導教員一覧	4
・ 履修案内	
1) 単位制	5
2) 単位と時間数	5
3) 授業	5
4) 履修指導、研究指導の方法等	5
5) 副指導教員	5
6) 14条特例に基づく履修申請	5
7) 修業年限及び長期履修制度	5
8) 履修届	6
9) 履修方法等	6
10) 試験	7
11) 成績評価	7
12) 成績の発表	7
13) 修了	7
14) 学位の授与	7

・学生生活等

1) 学生生活に関する事項	8
2) 経済的支援	8
3) 研究費	8
4) 学生証について	9
5) 電話等による連絡	9

・学位申請

1) 学位論文審査基準等について	10
2) 課程修了による学位論文審査の申請に係る書類作成のための手引き	11
3) 学位審査手順	11
課程修了による学位論文審査の流れ	13

・授業実施計画

14

大学院医学系研究科 医学専攻（博士課程）の目的等

目 的

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）は、国際的にリーダーシップを発揮できる基礎医学研究者と臨床研究医を養成することを目的としています。

即ち、光先端医学を中心に幅広い専門分野の授業科目を履修することを基礎に、基礎研究者を目指す学生には高度の専門的知識と技術を身につけ、独創的な先端研究を遂行できる能力を養成します。

また、臨床研究医を目指す学生には、臨床研究を更に推進することができるような研究マインドを持ち、臨床の現場で広く求められる応用力を養成します。

教育目標

1. 研究者としての倫理と誠実な人間性を養う。
2. 国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。
3. 問題発見能力を身につける。
4. 医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく問題解決能力を身につける。
5. 学術論文の作成能力を身につける。
6. 生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う。

ディプロマ・ポリシー

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）を修了し、以下の資質と能力を身につけ、学修目標に達したと認められる者に対して、博士（医学）の学位を授与します。

1. 生涯学習能力

最新の高度先進医療の医学知識・技能を生涯に亘って学修する習慣。

2. 豊かな人間性と高い倫理観

様々な職種と協調し、責任感をもって職務を全うする道徳的態度。

3. 研究心

医学的・医療上の疑問や課題を追求し、それらの解決を目指す探求心。

4. 国際性

国際的視野をもち、研究成果を世界に発信する能力。

5. 地域貢献

研究成果を広く地域社会に還元・普及させるための知識と技術の習得。

カリキュラム・ポリシー

大学院医学系研究科（医学専攻）が人材の育成を達成するために、国際的に高い水準を持ち、高度の専門的知識と技術を身につけた基礎医学研究者を養成するための「研究者コース」及び幅広い領域の学識を有し、臨床研究を更に推進することができるような高度専門医療者を養成するための「臨床研究者コース」を設け、以下のような教育課程を編成・実施し、学修成果を評価します。

【教育課程編成の考え方及び学習内容・学習方法】

1. 生涯学習能力

多様な共通科目及び専門科目を開講し、最新の高度先進医療の医学知識・技能を修得するとともに、自己評価能力を身につけ、生涯に亘ってこれらを学習する習慣を育む。

2. 豊かな人間性と高い倫理観

倫理に関係する講義を開講し、医療・研究倫理に関わる基本的事項を学ぶとともに、研究実施にあたっては、実験計画の申請等の実務経験を積む過程で様々な職種と協調し、責任感をもって職務を全うする道徳的態度を育む。

3. 研究心

専門のセミナー、実習を開講し、独創的な先端研究を推進する能力並びに臨床現場および医療行政職等での疑問や課題を追求し、それらの解決を目指す研究心を育成する。

4. 国際性

英語で行われる講義及び国際的に高い水準の研究活動に接する場としてセミナーを開講し、国際的視野をもち、研究成果を世界に発信する能力を育む。

5. 地域貢献

「研究者コース」においては、専門分野に係る実験及び実習を通じ、地域貢献に資する研究者として医学・医療の発展に寄与できるような専門技能能力を、「臨床研究者コース」においては、専門分野の認定資格（専門医等）の取得に必要な診療活動を行う実習を開講し、研究成果を広く地域社会に還元・普及させるための知識と技術を習得する。

【学修成果の評価方法】

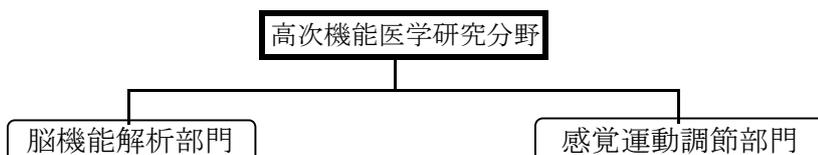
授業科目のシラバスにその科目の学修目標を記載し、科目ごとに設定した評価方法に基づき、公正で厳格な成績評価を行い、ディプロマ・ポリシーに示す知識と能力の達成度を評価する。

【専攻の概要】

医学専攻（博士課程）は、4研究分野、11部門により編成されている。



光は細胞や組織と相互作用し、その状態に関して様々な情報をもたらす。従って、光学的研究手法は極めて多岐にわたり、医学の広範な領域において有用な手段となっている。本研究分野では、光を用いた測定手段やイメージングの手法を最大限に活用し、また、光を生体に作用させることによって医学上の重要課題を解決し、基礎医学の発展を図ると共に、臨床に役立つ診断、治療、予防に関する研究を進めようとするものである。



生体の有機的な活動のためには、神経系、感覚器系等の高次調節機能の統合のとれた働きが必要である。近年、分子生物学的手法及び遺伝子解析の進歩により、従来他領域に比べて遅れがちであった神経・感覚器領域の疾患の病因が次々と明らかになっている。その意味ではまさに豊富な潜在性を持つ領域と言える。

本研究分野では、1) 神経系、感覚器系の正常機能の基礎的解析、2) 神経系、感覚器系の正常な機能の破綻で生じる疾患群の病因解析を行い、その効果的治療法の開発を目指す。

現在、これらの分野においても、解析の方法論は多岐に渡っており、本研究分野においても、様々な方法論を持つ研究者が集うことにより、学際的で効果的な研究を推進することができる体制となっている。



生体は受精卵という1個の細胞が分裂を繰り返しながら多細胞となり、各領域が相互に影響をおよぼしながら、各器官が形成される。各臓器とも、その組織に運命づけられた組織特異的な幹細胞が存在し、その幹細胞を維持しつつ、大多数のその臓器に特有な分化細胞を作り、多細胞からなる組織を構成している。また、分化した細胞には寿命があり、古い細胞は新しい細胞に絶えず置き換わっている。しかし、生体が年齢を経るにつれて、各器官の恒常性や細胞秩序に破綻が見られるようになる。

本研究分野では、生命の基本である細胞の増殖と分化の制御機構や、多種類の細胞から構成される各器官の細胞社会の成立機構を、分子レベル、細胞レベル、器官培養レベル、個体レベルから解明すると共に、各器官特有な病態の解明を行い、これらの成果をヒトの疾病の治療に応用できるようにする医学研究を目指す。



生体防御は、生物が体外からの侵襲のみならず体内に起因する異変に対して、自己を防御し恒常性を維持するシステムであり、「適者生存」の原則に従ってこのシステムは複雑に発達してきた。前者の侵襲としては感染、外傷、熱傷などが、後者のそれには腫瘍、血行障害などが挙げられる。本研究分野では 1) これらに対する防御機構のみならず2) これら自身の病態、更には 3) 防御機構の破綻による疾患の病態を分子生物学的、生化学的、細胞生物学的、あるいは発生工学的手法を駆使して解明し、疾病の診断法、治療法、予防法を開発することを目的とします。更に、4) 個体の遺伝子情報に基づいた疾患の一次予防、テーラーメイド医療についての研究、5) 生活習慣病の危険因子の疫学調査研究、地域社会における健康増進の予防医学研究も進めていく。

研究指導教員一覧

(令和8年4月1日現在)

研究分野	部門	氏名	学部担当講座等名
光先端医学	光薬理	黒野 暢 仁	総合人間科学 (化学)
		大久保 洋 平	薬理学
		五島 聡	放射線診断学
		乾 直 輝	臨床薬理学
		牧野 顕	分子病態イメージング (光医学総合研究所)
	川上 純 一	薬剤部	
	光治療環境	竹内 裕 也	外科学第二 (消化器・血管外科学分野)
		本田 哲 也	皮膚科学
		兼子 裕 規	眼科学
	増本 一 真	歯科口腔外科学	
光機能イメージング	瀬藤 光 利	細胞分子解剖学	
	新明 洋 平	神経生理学	
	鈴木 優 子	医生理学	
	岩下 寿 秀	再生・感染病理学	
	前川 裕 一 郎	内科学第三 (循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)	
	尾内 康 臣	生体機能イメージング (光医学総合研究所)	
	長島 優	光生体医工学 (光医学総合研究所)	
	大川 晋 平	生体計測工学 (光医学総合研究所)	
	山岸 覚	光神経解剖学 (光医学総合研究所)	
高次機能医学	脳機能解析	田中 悟 志	総合人間科学 (心理学)
		佐藤 康 二	器官組織解剖学
		山末 英 典	精神医学
		黒住 和 彦	脳神経外科学
		中村 友 彦	脳神経内科
	(予定教員)	整形外科学	
感覚運動調節	三澤 清	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	
	中島 芳 樹	麻酔・蘇生学	
	山内 克 哉	リハビリテーション医学	
	中川 雅 裕	形成外科学	
	(予定教員)	臨床腫瘍学	
病態医学	分子腫瘍	山中 総 一 郎	分子生物学
		新村 和 也	腫瘍病理学
		中村 和 正	放射線腫瘍学
	(予定教員)	臨床腫瘍学	
	組織再生	前田 達 哉	総合人間科学 (生物学)
		才津 浩 智	医化学
		佐原 真	再生医療学
		小谷 友 美	産婦人科学
	宮入 烈	小児科学	
器官病態	杉本 健	内科学第一 (消化器・腎臓・脳神経内科学分野)	
	(予定教員)	内科学第二 (内分泌・呼吸・肝臓内科学分野)	
	岡本 一 真	外科学第一 (心臓血管・呼吸器・一般(内視鏡)・乳腺外科学分野)	
	稲元 輝 生	泌尿器科学	
	船井 和 仁	第一外科	
予防・防衛医学	感染・免疫	岩谷 靖 雅	微生物学・免疫学
	予防医学	尾島 俊 之	健康社会医学
	危機管理情報医学	長谷川 弘 太郎	法医学
渥美 生 弘		救急災害医学	

履修案内

1) 単位制

単位とは、一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるもので、各授業科目を履修して合格すれば、その科目の単位数が取得できる。

単位数によりその達成度が測られ、進級及び修了の可否が決定される単位制をとっている。

2) 単位と時間数

① 授業は前期、後期の2学期で実施され、原則的に、15週をもって1学期、試験等の期間を除き30週をもって1学年としている。

② 講義については15時間、演習については30時間、実験及び実習については45時間をもって1単位としている。なお、授業時間割の1時限を2時間とみなす。

3) 授業

授業時間割表は、前・後期に分けて作成されたものを配付する。

4) 履修指導、研究指導の方法等

履修指導、研究指導の方法等は次のとおりとする。

① 授業科目の履修指導、博士論文等の研究指導は、原則として指導教員が行う。

② 研究指導に当たり、指導教員の他に副指導教員を置くことができる。

③ 適切な研究指導のためには指導教員（副指導教員）と相談し、あらかじめ1年間の研究計画を作成する必要があることから、入学時においては、4月入学者は4月に、10月入学者は10月に、それ以降は4月に所定の様式により研究計画書を作成する。

④ 新しい技術を修得し、新しい分野での研究法を学ばせるために、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、原則として1年を超えないものとする。

⑤ 優れた研究者養成という観点から、学生の国内外留学を積極的にサポートする。

5) 副指導教員

指導教員は、原則として1年次または2年次に少なくとも1年間程度研究等に関する基本的事項を習得させるため、すべての大学院生に副指導教員を置くこととする。副指導教員は、原則として基礎系の大学院生は臨床医学系の教員、臨床系の大学院生は基礎医学系の教員とし、指導教員の申請または医学専攻部会の推薦によるものとする。

6) 14条特例に基づく履修申請

在職しながらの修学を希望する学生に対し、大学院設置基準第14条では「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人の修学に特別措置を行うことができるよう配慮されている。

教育方法の特例を受けようとする学生は、指導教員と相談のうえ申請することにより、授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に受講することができる。

7) 修業年限及び長期履修制度

① 標準年限は4年とする。また、在学期間は8年を超えることはできない。ただし、休学期間は在学期間に算入しない。

② 学則第34条では「職業を有している等の理由により、標準修業年限を越えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望する場合は、その計画的履修を認めることができる」旨規定されており、社会人の修学に特別措置を行うことができるよう配慮されている。

長期履修を希望する場合は、長期履修学生規程に基づき指導教員と相談の上、入学年度の4月15日（10月入学者は10月15日）又は3年次の本学が指定する期日までに申請することにより、5年間あるいは6年間の間で計画的に履修することが可能になる。最終年次に申請はできないので注意すること。

また、長期履修期間の短縮を希望する場合は、希望する修了予定学期の前学期の本学が指定する期日までに期間変更の申請をすることが必要である。なお、修了予定学期中の申請はできないので注意すること。履修期間の変更は、在学中1回限りとする。

8) 履修届

入学時に履修手続きのガイダンスを行うので、それに従って履修届用紙にて申請を行うこと。この履修申請を怠ると、十分に学修したという実績があっても単位を取得できない。

また、授業科目の教育要項（シラバス）は学務情報システム（ポータルサイト）により参照すること。

9) 履修方法等

授業科目の選択は、授業実施計画に記載してある条件に基づいて、シラバスを参考に、指導教員とよく相談のうえ決定すること。

① 研究者コース

- (1) 「先端基礎医学特論」（2単位）を履修する。
- (2) 共通科目及び専門科目のうち*印の付いた科目から4科目（8単位）を選択する。
- (3) 所属講座等の「セミナー」科目 A,B 各々1科目を選択する。
- (4) 所属講座等の「実習」を履修する。

② 臨床研究者コース

- (1) 「先端医学特論Ⅰ、Ⅱ」（4単位）を選択する。
- (2) 「医療倫理学」、「遺伝子医療と再生医療」（4単位）を履修する。
- (3) 共通科目のうち2単位以上を選択する。
- (4) 所属講座等の「セミナー」科目 A,B 各々1科目を選択する。
- (5) 所属講座等の「実習」を履修する。

③ 次世代腫瘍医学コース

- (1) 「次世代腫瘍医学特論」、「先端医学特論Ⅰ」（4単位）を履修する。
- (2) 共通科目のうち3科目（6単位）以上を選択する。
- (3) がん治療を学び研究する講座の「セミナー」科目 A,B 各々1科目を選択する。
- (4) がん治療を学び研究する講座の「実習」を履修する。

④ がん予防医学研究コース

- (1) 「がん予防医学特論」、「先端医学特論Ⅰ」（4単位）を履修する。
- (2) 共通科目のうち3科目（6単位）以上を選択する。
- (3) がん治療を学び研究する講座の「セミナー」科目 A,B 各々1科目を選択する。
- (4) がん治療を学び研究する講座の「実習」を履修する。

⑤ 新規がん治療開発コース

- (1) 「新規がん治療特論」、「先端基礎医学特論」（4単位）を履修する。
- (2) 共通科目及び専門科目のうち*印の付いた科目から3科目（6単位）を選択する。
- (3) がん治療を学び研究する講座の「セミナー」科目 A,B 各々1科目を選択する。
- (4) がん治療を学び研究する講座の「実習」を履修する。

10) 試験

履修した授業科目について、原則として試験により成績評価を行う。試験は、授業担当教員の判断で、レポート、口頭試問等の方法により評価する場合もある。

11) 成績評価

授業科目の成績は、秀、優、良、可、不可の評語をもって表し、不可を不合格とする。

なお、評価の基準は以下のとおりである。

秀・・・90点以上

優・・・80点以上

良・・・79～70点

可・・・69～60点

不可・・・59点以下

12) 成績の発表

成績は学年度末に学生に学務情報システムにより通知する。

なお、成績評価について質問・申立てがある場合は「大学院生における成績評価の質問・申立て等に関する申合せ」に基づき手続きを行うこと。

13) 修了

大学院修了の要件は、本学学則及び履修規程の定めるところにより、原則として4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出しその審査及び試験に合格しなければならない。

ただし、在学期間に関しては、大学院医学専攻教授会が優れた業績を上げたと認める者については、大学院に3年以上在学すれば足りるものとする。

14) 学位の授与

本課程を修了した者には、本学学位規程に基づき、博士（医学）の学位を授与する。

学生生活等

1) 学生生活に関する事項

別冊の「学生生活案内」を参照すること。

なお、主な事項として次のものがある。

- ① 休学・復学・退学・身上異動に関すること
- ② 授業料の納付に関すること
- ③ 日本学生支援機構奨学金等に関すること
- ④ 学割証等に関すること
- ⑤ 学校教育研究災害傷害保険制度及び学研災付帯学生生活総合保険に関すること
- ⑥ 各種証明書等に関すること
- ⑦ 健康保持に関すること
- ⑧ 図書館の利用に関すること

2) 経済的支援

大学院生が安心して教育・研究を行うことができるよう以下の経済的支援がある。募集の通知等に注意し、条件が合う場合は積極的に応募すること。

① 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料・授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生には、本人の申請に基づき選考の上、25%～100%免除することがある。問合せは学務課学生支援係まで。

② 日本学生支援機構等の奨学金

日本学生支援機構による育英奨学事業としての学費の貸与や各地方公共団体・企業等の奨学事業については、学生生活案内を参照。問合せは学務課学生支援係まで。

③ 株式会社日本政策金融公庫による教育ローン

大学に入学・在学するために必要となる資金（入学料・授業料・生活準備費用等）を、学生1人につき350万円以内で融資する制度。詳細は「株式会社日本政策金融公庫」ホームページを参照すること。（<http://www.jfc.go.jp/>）

④ ティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）

指導教員より推薦があった大学院生に対して、選考の上、非常勤職員として採用する制度。教育補助業務（TA）及び研究補助業務（RA）を行うことにより、給与が支払われる。

なお、採用にあたっては健康診断書の提出が求められるため、学生定期健康診断（3～4月実施）もしくは職員健康診断（6月実施）を必ず受健すること。

3) 研究費

大学院生の研究に要する経費については、各講座に配分されているので、実験費用や学会参加費等に使用できる。

4) 学生証について

学生身分を証明するものですので必ず携帯し、汚損・紛失しないように扱ってください。本学附属図書館利用時に学生証が必要です。本学附属図書館は、24時間利用が可能であり、大学院学生の自習にも使用できます。

なお、修了予定学生は学位記授与式当日までに学生証を学務課大学院係へ返却すること。

5) 電話等による連絡

① 学務課大学院係

電話番号	053-435-2204
ファックス (学務課共通)	053-435-2233
メールアドレス	daigakuin@hama-med.ac.jp

② 学務課学生支援係

電話番号	053-435-2202
------	--------------

③ 国際化推進室留学生係

電話番号	053-435-2210
------	--------------

学位申請

学位授与については、「浜松医科大学学位規程」及び「浜松医科大学大学院医学系研究科博士学位論文審査実施要項」等により行うが、学位論文審査においては、下記の事項に注意の上、十分な余裕をもって計画的に学位論文を作成すること。

1) 学位論文審査基準等について

浜松医科大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）における学位申請について、以下のとおりとする。なお、学位申請にかかる審査、審査委員等の事項については大学院医学専攻教授会において審議を行う。

1. 学位論文

- ・原則として英文の原著論文であること。
- ・共著の場合は、次に掲げる条件を満たすこと。
 - 筆頭著者であること。
 - 他の共著者から当該論文を学位論文として使用しても差し支えない旨の承諾を得ていること。
- ・査読付きの学会誌等に掲載（電子媒体による掲載を含む。）された論文又は掲載が予定されている論文とし、原則としてMEDLINE又はWeb of ScienceのSCIEに収載されているものとする。
- ・原則として掲載後5年以内の論文であること。
- ・前項にかかわらず、課程博士にあつては、原則として入学から1年以上経て掲載された論文であること。
- ・掲載が予定されている学位論文は、雑誌の編集委員会等による掲載を前提に受理されたことが確認できる書類があれば、掲載論文とみなすことができる。
- ・各項に該当するか否か不明の場合又は疑義がある場合は、疑義の生じた時点で大学院医学専攻部会において協議する。

2. 審査

- ・学位論文の審査のほか、試験及び学力の確認を行う。
- ・学位論文審査申請者の資格等審査は、次に掲げる事項について行う。
 - 課程修了による学位論文審査申請者：在学年数、単位修得状況、その他関連する事項
 - 論文提出による学位論文審査申請者：研究歴、外国語試験合格の有効期限、その他関連する事項
- ・学位論文の審査は、査読、調査、発表、検討会等により行う。なお、審査の結果、不合格と判定した場合は、試験及び学力の確認を行わない。
 - 審査基準：学位申請論文が当該分野における学術的意義、新規性、創造性等を有していること。
- ・試験及び学力の確認は、学位論文の審査終了後に行う。ただし、論文博士に該当する者の学力の確認のうち、外国語については事前に行う。
 - 試験：学位論文の関連分野について行う。
 - 学力の確認：外国語、専攻学術全般及び学位論文の関連分野について、口頭試問及び筆答試問に

より行う。

審査基準：学位申請者が研究の計画及び遂行能力、研究成果の論理的説明能力、当該分野の関連研究領域及び専門分野全般の知識、倫理的判断能力等を有していること。

3. 審査委員会

- ・本学の大学院の医学専攻博士課程担当の教員3人からなる審査委員会を設け、審査を行う。ただし、審査委員のうち2人以上は、大学院医学専攻教授会構成員とする。
- ・大学院医学専攻教授会が必要と認めた場合は、本学大学院の他の課程、他の大学院又は研究所等の教員等を該当する審査委員会の委員とすることができる。なお、他の大学院又は研究所等の教員等を審査委員とする場合は、審査委員の内数とする。
- ・審査委員3名のうち1名を主査とする。主査は、委員の互選により選出する。
- ・指導教員、紹介教員並びに学位論文審査申請者が所属する講座（附属病院診療科・部を含む。）の教員は、審査委員には選出できない。

2) 課程修了による学位論文審査の申請に係る書類作成のための手引き

【学位申請提出書類】

① 主論文	4部
② 副論文 (ある場合)	4部
③ 学位論文(主論文・副論文)が未掲載の場合は掲載を前提に受理されたことが確認できる書類	1部
④ 学位論文審査願 (別紙様式1)	1部
⑤ 論文目録 (別紙様式2)	1部
⑥ 論文内容要旨 (別紙様式3)	1部
⑦ 履歴書 (別紙様式4)	1部
⑧ 承諾書〔共著論文の場合〕 (別紙様式5)	1部
⑨ 研究業績目録〔論文・著書〕 (別紙様式8)	1部
⑩ その他	
・学位申請時のチェック項目	1部
・「論文審査申請者・論文審査手続き進行手順」	1部
・論文審査委員会委員候補者推薦書(紹介・指導教員推薦分)	1部

3) 学位審査手順

学位申請書類提出先(講義実習棟(1階)学務課大学院係)

- ① 大学院医学専攻部会で体裁等書類内容審査
- ② 大学院医学専攻教授会で受理の審査が行われ、審査委員会委員3名が決定される。
- ③ 論文審査委員会設置
 - ☆ 論文審査委員会開催日程について指導教員と相談の上、論文審査委員会委員との日程調整

を行う。開催日程が決定次第、学務課大学院係に連絡し、部屋の確保を行う。

☆ 仮綴の論文3部を学務課から受け取り、審査委員会各委員に手渡し、審査を依頼する。

④ 論文審査委員会開催

☆ 申請者は論文内容をプレゼンする。

⑤ 大学院医学専攻部会で審査結果及び試験結果の体裁等審査

⑥ 大学院医学専攻教授会で学位授与の審査（通常は第3木曜日）

（学位授与の審査日時は学務課より連絡する。）

☆ 申請者は指定場所で待機。

⑦ 学位授与の審査結果通知

⑧ 学位記授与式（9月又は3月）

☆ 日程等は、追って申請者に通知する。

☆ 原則として全員出席すること。欠席の場合は、理由書等の提出を求められることがある。

⑨ 学術機関リポジトリへの登録手続きと論文電子媒体（PDF等）の提出

☆ 学位の授与を受けた者は、学位授与を受けた日から1年以内に論文を学術機関リポジトリにより公表するため、論文の電子媒体（著者最終稿及び出版社版）、学術機関リポジトリ登録許諾書を学務課に提出する。

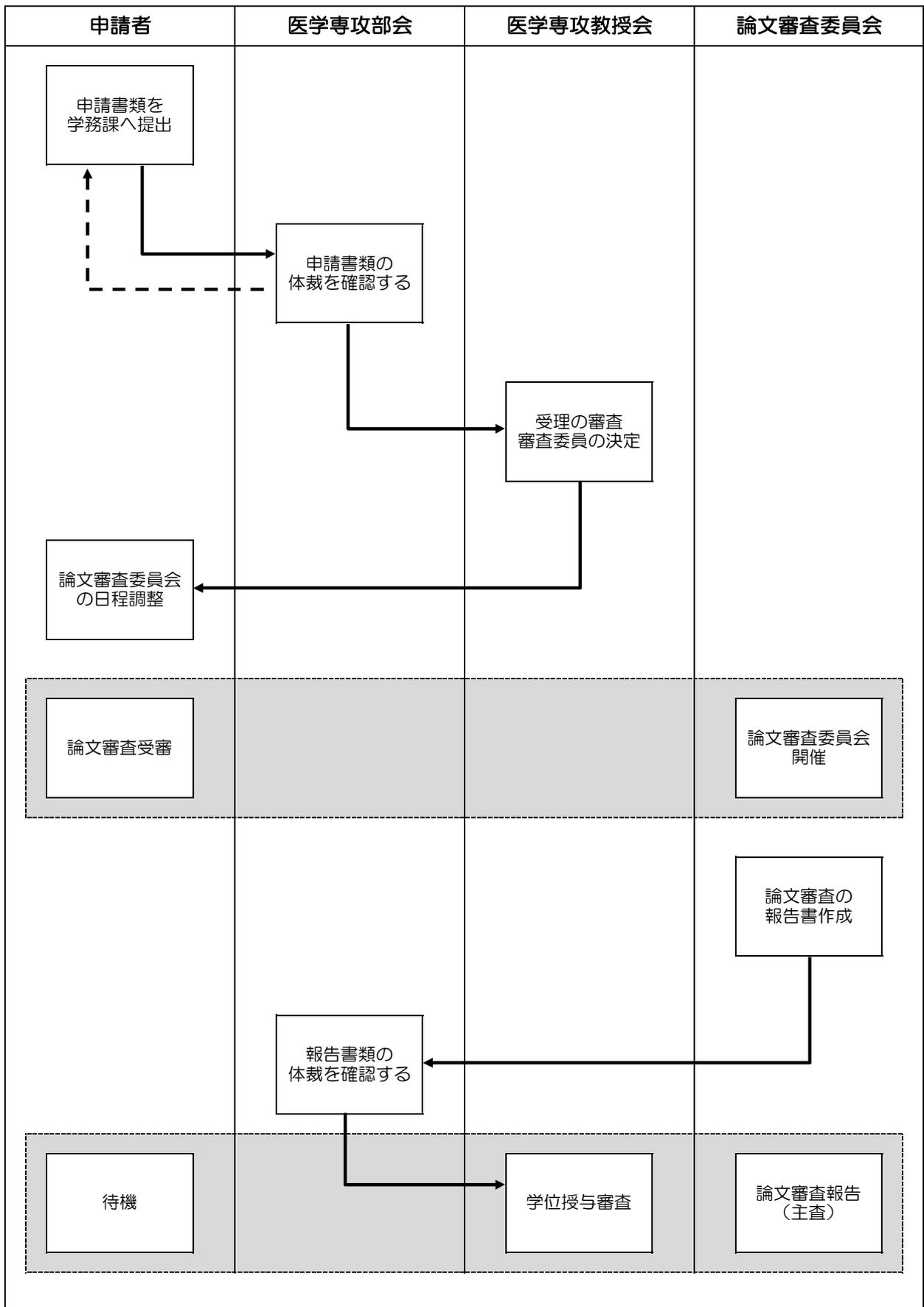
〔照会先〕 浜松医科大学学務課大学院係

電 話 番 号：053-435-2204

メールアドレス：daigakuin@hama-med.ac.jp

〒431-3192 浜松市中央区半田山一丁目20番1号

課程修了による学位論文審査の流れ



授 業 実 施 計 画

履 修 例

〔履修例1〕 研究者コース

先端基礎医学特論	2 単位
蛋白質研究法	2 単位
P E T 学	2 単位
実験機器の機能と使用法	2 単位
神経生理学	2 単位
神経生理学セミナーA	6 単位
神経生理学セミナーB	6 単位
神経生理学実習	8 単位
<hr/>	
	30 単位

〔履修例2〕 臨床研究者コース

先端医学特論 I	2 単位
先端医学特論 II	2 単位
医療倫理学	2 単位
遺伝子医療と再生医療	2 単位
プレゼンテーション技法	2 単位
薬理学セミナーA	6 単位
臨床薬理学セミナーB	6 単位
臨床薬理学実習	8 単位
<hr/>	
	30 単位

〔履修例3〕 臨床研究者コース（両聖隷病院所属）

先端医学特論 I	2 単位
先端医学特論 II	2 単位
医療倫理学	2 単位
遺伝子医療と再生医療	2 単位
プレゼンテーション技法	2 単位
総合診療内科学セミナー	12 単位
総合診療内科学実習	8 単位
<hr/>	
	30 単位

〔履修例4〕 次世代腫瘍医学コース

先端医学特論 I	2 単位
次世代腫瘍医学特論	2 単位
医療倫理学	2 単位
研究の進め方と論文作成法	2 単位
プレゼンテーション技法	2 単位
放射線腫瘍学セミナーA	6 単位
放射線腫瘍学セミナーB	6 単位
放射線腫瘍学実習	8 単位
<hr/>	
	30 単位

令和8年度大学院授業実施計画

番号	授業科目名	授業実施方法等	単位数	代表教員	A	B	C	D	E	
1-1	共通	細胞内シグナル伝達学	集中授業1週間、講義、演習	2	前田 達哉	*	◇	◇	◇	*
1-2		光医学実験講習	〃	2	山岸 覚	*	◇	◇	◇	*
1-3		蛋白質研究法	〃	2	山中 総一郎	*	◇	◇	◇	*
1-4		次世代シーケンス解析法	〃	2	才津 浩智	*	◇	◇	◇	*
1-5		行動神経科学	〃	2	田中 悟志	*	◇	◇	◇	*
1-6		バイオエレクトロニクス・バイオセンシング特論	〃	2	三浦 康弘	*	◇	◇	◇	*
1-7		有機化合物の分離と同定	〃	2	黒野 暢仁	*	◇	◇	◇	*
1-8		医学統計学	〃	2	古屋 淳	*	◇	◇	◇	*
1-9		疫学方法論	15時間以上の講義・演習	2	尾島 俊之	*	◇	◇	◇	*
1-10		動物実験の技法	集中授業1週間、講義、演習	2	高林 秀次	*	◇	◇	◇	*
1-11		実験機器の機能と使用法	〃	2	内田 千晴	*	◇	◇	◇	*
1-12	科目	先端基礎医学特論	講義15回（水曜日17時30分～19時）	2	長島 優	◎	◇	◇	◇	◎
1-13		先端医学特論Ⅰ	講義15回（金曜日17時30分～19時）	2	前川 裕一郎		◎	◎	◎	
1-14		先端医学特論Ⅱ	講義15回（火曜日17時30分～19時）	2	中村 和正		◎	◇	◇	
1-15		医療倫理学	講義10回（月曜日17時30分～20時）	2	長田 怜		◎	◇	◇	
1-16		遺伝子医療と再生医療	講義10回（水曜日17時30分～20時）	2	才津 浩智		◎	◇	◇	
1-17		研究の進め方と論文作成法	演習60時間	2	各指導教員		◇	◇	◇	
1-18		プレゼンテーション技法	演習60時間	2	各指導教員		◇	◇	◇	
1-19		カダバーサージカルトレーニング実習	講義・実習	1	瀬藤 光利		◇	◇	◇	
1-20		次世代腫瘍医学特論	講義	2	新村 和也		◇	◎	◇	
1-21		がん予防医学特論	講義	2	尾島 俊之		◇	◇	◎	
1-22	新規がん治療特論	講義	2	佐原 真		◇	◇	◇	◎	

<A>研究者コース、臨床研究者コース、<C>次世代腫瘍医学コース、<D>がん予防医学研究コース、<E>新規がん治療開発コース

【◎】必修科目、【*】選択必修科目（A：4科目以上、E：3科目以上）、【◇】選択必修科目（B：2単位以上、C、D：6単位以上）

【☆】選択必修科目（A、B：各研究分野の科目、C、D、E：がん治療を学び研究する講座が開講する科目）、【空欄】選択科目

令和8年度大学院授業実施計画

番号	授業科目名		授業実施方法等	単位数	代表教員	A	B	C	D	E	
2-1	光 共 通	部 門	神経生理学	集中授業1週間、講義、演習	2	新明 洋平	*			*	
2-2			循環生理学	〃	2	鈴木 優子	*			*	
2-3			組織幹細胞病理学	〃	2	岩下 寿秀	*			*	
2-4			薬理学	〃	2	大久保 洋平	*			*	
2-5			PET学	15時間以上の講義・演習	2	牧野 颯	*			*	
2-6			光医工学トランスレーショナルリサーチと社会実装	〃	2	瀬藤 光利	*			*	
2-7	先 端 医 学 部 門 研 究 分 野	光 薬 理 部 門	薬理学セミナーA	セミナー年間180時間	6	大久保 洋平		☆			
2-8			薬理学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			薬理学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
			分子イメージングセミナーA	セミナー年間180時間	6	牧野 颯			☆		
2-9			分子イメージングセミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			分子イメージング実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
			放射線医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	五島 聡			☆		
2-10			放射線医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			放射線医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
			臨床薬理学セミナーA	セミナー年間180時間	6	乾 直輝			☆		
2-11			臨床薬理学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			臨床薬理学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
			医療化学セミナーA	セミナー年間180時間	6	黒野 暢仁			☆		
2-12			医療化学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			医療化学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
	薬剤学セミナーA	セミナー年間180時間	6	川上 純一			☆				
2-13	薬剤学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
	薬剤学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆				
	皮膚科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	本田 哲也			☆				
2-14	皮膚科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
	皮膚科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆				
	眼科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	兼子 裕規			☆				
2-15	眼科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
	眼科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆				
	上部消化管外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	竹内 裕也			☆				
	上部消化管外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
	上部消化管外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆				
	下部消化管外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
	下部消化管外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
	下部消化管外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆				
	肝・胆・膵外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆				
肝・胆・膵外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆					
		肝・胆・膵外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			

令和8年度大学院授業実施計画

番号	授業科目名		授業実施方法等	単位数	代表教員	A	B	C	D	E
2-15	光 治 療 環 境 部 門	血管外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	竹内 裕也			☆		
		血管外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		血管外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
歯科口腔外科学セミナーA		セミナー年間180時間	6	増本 一真			☆			
歯科口腔外科学セミナーB		セミナー年間180時間	6	〃			☆			
歯科口腔外科学実習		実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
2-17	先 光 機 能 医 学 研 究 分 野	循環器内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	前川 裕一郎			☆		
		循環器内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		循環器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
		血液内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		血液内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		血液内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
		免疫・リウマチ内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		免疫・リウマチ内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		免疫・リウマチ内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-18	イ	血液循環生理学セミナーA	セミナー年間180時間	6	鈴木 優子			☆		
		血液循環生理学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		血液循環生理学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-19	メ	神経生理学セミナーA	セミナー年間180時間	6	新明 洋平			☆		
		神経生理学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		神経生理学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-20	ル	幹細胞病理学セミナーA	セミナー年間180時間	6	岩下 寿秀			☆		
		幹細胞病理学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		幹細胞病理学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-21	ジ	脳機能イメージングセミナーA	セミナー年間180時間	6	尾内 康臣			☆		
		脳機能イメージングセミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		脳機能イメージング実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-22	ン	細胞生物学セミナー	セミナー年間180時間	6	瀬藤 光利			☆		
		システム分子解剖学セミナー	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		細胞生物学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-23	グ	光生体医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	長島 優			☆		
		光生体医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		光生体医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-24	部	生体計測工学セミナーA	セミナー年間180時間	6	大川 晋平			☆		
		生体計測工学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		生体計測工学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
2-25	門	光神経イメージングセミナーA	セミナー年間180時間	6	山岸 覚			☆		
		光神経イメージングセミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		光神経イメージング実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		

令和8年度大学院授業実施計画

番号	授業科目名		授業実施方法等	単位数	代表教員	A	B	C	D	E
3-1	共通	神経解剖学	集中授業1週間、講義、演習	2	佐藤 康二	*				*
3-2	脳機能解析部門	神経解剖学セミナーA	セミナー年間180時間	6	佐藤 康二			☆		
		神経解剖学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		神経解剖学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-3		行動神経科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	田中 悟志			☆		
		行動神経科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		行動神経科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-4		精神医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	山末 英典			☆		
		精神医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		精神医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-5		脳神経外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	黒住 和彦			☆		
		脳神経外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		脳神経外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-6	脳神経内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	中村 友彦			☆			
	脳神経内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
	脳神経内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
3-7	高次機能医学研究分野	整形外科セミナーA	セミナー年間180時間	6	予定教員			☆		
		整形外科セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		整形外科実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-8		麻酔蘇生科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	中島 芳樹			☆		
		麻酔蘇生科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		麻酔蘇生科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-9		耳鼻咽喉科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	三澤 清			☆		
		耳鼻咽喉科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		耳鼻咽喉科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-10		形成外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	中川 雅裕			☆		
		形成外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		形成外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
3-11	リハビリテーション医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	山内 克哉			☆			
	リハビリテーション医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
	リハビリテーション医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			

<A>研究者コース、臨床研究者コース、<C>次世代腫瘍医学コース、<D>がん予防医学研究コース、<E>新規がん治療開発コース

【◎】必修科目、【*】選択必修科目（A：4科目以上、E：3科目以上）、【◇】選択必修科目（B：2単位以上、C、D：6単位以上）

【☆】選択必修科目（A、B：各研究分野の科目、C、D、E：がん治療を学び研究する講座が開講する科目）、【空欄】選択科目

令和8年度大学院授業実施計画

番号	授業科目名		授業実施方法等	単位数	代表教員	A	B	C	D	E	
4-1	共通	腫瘍学	集中授業1週間、講義、演習	2	新村 和也	*				*	
4-2	分子腫瘍部門	分子細胞生物化学セミナーA	セミナー年間180時間	6	山中 総一郎			☆			
		分子細胞生物化学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
		分子細胞生物化学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-3		腫瘍病理学セミナーA	セミナー年間180時間	6	新村 和也			☆			
		腫瘍病理学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
		腫瘍病理学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-4		臨床腫瘍学セミナーA	セミナー年間180時間	6	予定教員			☆			
		臨床腫瘍学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
		臨床腫瘍学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-5		放射線腫瘍学セミナーA	セミナー年間180時間	6	中村 和正			☆			
		放射線腫瘍学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
	放射線腫瘍学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆				
4-6	病態医学研究分野	分子医科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	才津 浩智			☆			
		分子医科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
		分子医科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-7		代謝シグナリング学セミナーA	セミナー年間180時間	6	前田 達哉			☆			
		代謝シグナリング学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
		代謝シグナリング学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-8		幹細胞・再生医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	佐原 真			☆			
		幹細胞・再生医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆			
		幹細胞・再生医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-9		組織再生部門	産婦人科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	小谷 友美			☆		
			産婦人科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
	産婦人科学実習		実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-10	小児科学セミナーA		セミナー年間180時間	6	宮入 烈			☆			
	小児科学セミナーB		セミナー年間180時間	6	〃			☆			
	小児科学実習		実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			
4-11	器官病態部門		消化器内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	杉本 健			☆		
			消化器内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			消化器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆		
			腎臓内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
			腎臓内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆		
		腎臓内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆			

令和 8 年度大学院授業実施計画

番号	授 業 科 目 名	授 業 実 施 方 法 等	単 位 数	代 表 教 員	A	B	C	D	E
4-12	病態医学研究分野 器官病態部門	内分泌・代謝内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	川田 一仁			☆	
		内分泌・代謝内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		内分泌・代謝内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
		呼吸器内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		呼吸器内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		呼吸器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
		肝臓内科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		肝臓内科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		肝臓内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
4-13	病態医学研究分野 器官病態部門	心臓血管外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	岡本 一真			☆	
		心臓血管外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		心臓血管外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
		呼吸器外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	船井 和仁			☆	
		呼吸器外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		呼吸器外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
		乳腺外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		乳腺外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		乳腺外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
		一般外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	佐藤 正範			☆	
		一般外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		一般外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
4-14	病態医学研究分野 器官病態部門	小児外科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	予定教員			☆	
		小児外科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		小児外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
4-14	病態医学研究分野 器官病態部門	泌尿器科学セミナーA	セミナー年間180時間	6	稲元 輝生			☆	
		泌尿器科学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		泌尿器科学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
5-1	予防医学部門	医療事故、医療過誤	集中授業 1 週間、講義、演習	2	大磯 義一郎	*			*
5-2	感染免疫部門	感染機構解析セミナーA	セミナー年間180時間	6	岩谷 靖雅			☆	
		感染機構解析セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		感染機構解析実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	
5-3	予防医学部門	健康社会医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	尾島 俊之			☆	
		健康社会医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃			☆	
		健康社会医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃			☆	

令和8年度大学院授業実施計画

番号	授業科目名	授業実施方法等	単位数	代表教員	A	B	C	D	E
5-5	危機管理情報医学部門	救急医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	渥美 生弘				☆
		救急医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃				☆
		救急医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃				☆
5-6	危機管理情報医学部門	法医学セミナーA	セミナー年間180時間	6	長谷川 弘太郎				☆
		法医学セミナーB	セミナー年間180時間	6	〃				☆
		法医学実習	実習年間120時間×3年間	8	〃				☆

<A>研究者コース、臨床研究者コース、<C>次世代腫瘍医学コース、<D>がん予防医学研究コース、<E>新規がん治療開発コース

【◎】必修科目、【*】選択必修科目（A：4科目以上、E：3科目以上）、【◇】選択必修科目（B：2単位以上、C、D：6単位以上）

【☆】選択必修科目（A、B：各研究分野の科目、C、D、E：がん治療を学び研究する講座が開講する科目）、【空欄】選択科目

<2026年度大学院医学系研究科 集中講義>

開 講 時 期	授業科目名		単位数	科目責任者
6月22日(月) ~ 6月26日(金)	細胞内シグナル伝達学	Cellular signal transduction	2	前田 達哉
6月29日(月) ~ 7月3日(金)	医療事故、医療過誤	Medical error and malpractice	2	大磯 義一郎
7月13日(月) ~ 7月17日(金)	実験機器の機能と使用法	Function and use of experimental devices	2	内田 千晴
7月27日(月) ~ 7月31日(金)	次世代シーケンス解析法	Next Generation Sequencing Analysis	2	才津 浩智
8月3日(月) ~ 8月7日(金)	動物実験の技法	Humane experimental technique for animal experimentation	2	高林 秀次
8月24日(月) ~ 8月28日(金)	有機化合物の分離と同定	Isolation and identification of organic compounds	2	黒野 暢仁
9月7日(月) ~ 9月11日(金)	循環生理学	Cardiovascular physiology	2	鈴木 優子
9月14日(月) ~ 9月18日(金)	行動神経科学	Behavioral neuroscience	2	田中 悟志
9月28日(月) ~ 10月2日(金)	神経解剖学	Neuroanatomy	2	佐藤 康二
10月19日(月) ~ 10月23日(金)	薬理学	Pharmacology	2	大久保 洋平
11月2日(月) ~ 11月6日(金)	組織幹細胞病理学	Pathology of tissue stem cell	2	岩下 寿秀
11月9日(月) ~ 11月13日(金)	医学統計学	Medical statistics	2	古屋 淳
11月16日(月) ~ 11月20日(金)	蛋白質研究法	Protein study technique	2	山中 総一郎
11月30日(月) ~ 12月4日(金)	腫瘍学	Oncology	2	新村 和也
7月以降不定期開講(受講者に別途連絡) 講義の半分は2日間程度の集中講義として実施、残り半分は外部講師による講義として実施	PET学	Pet studies	2	牧野 顕
5月以降で、特定の週の集中講義とする形式または特定の曜日に行う形式のどちらかで受講者の希望に合わせて決定	バイオエレクトロニクス・バイオセンシング特論	Fundamentals and Current Topics on Bioelectronics and Biosensing	2	三浦 康弘
月1回、木曜日の9:30~12:00頃を実施 具体的な日程は受講者と調整 (隔年開講科目:2026年度開講)	疫学方法論	Principles of Epidemiology	2	尾島 俊之
4月以降開講(不定期・受講者に別途連絡)	光医学工学トランスレーショナルリサーチと社会実装	Translational research and Real world applications of quantum medical engineering	2	瀬藤 光利
受講者に別途連絡	光医学実験講習	Photon medical experimental class	2	山岸 覚
受講者に別途連絡	神経生理学	Neurophysiology	2	新明 洋平
随時	カダバーサージカルトレーニング実習	Practice of Cadaver Surgical Training	1	瀬藤 光利
研究指導教員の指示による	研究の進め方と論文作成法	Skills of conducting researches and preparing theses	2	各指導教員
研究指導教員の指示による	プレゼンテーション技法	Techniques of presentation	2	各指導教員

<オムニバス講義・がんプロ講義>

開 講 時 期	授業科目名		単位数	科目責任者
前期 水曜日 17:30~19:00	先端基礎医学特論	Topics in leading basic medicine	2	長島 優
前期 金曜日 17:30~19:00	先端医学特論 I	Topics in leading medicine I	2	前川 裕一郎
前期 火曜日 17:30~19:00	先端医学特論 II	Topics in leading medicine II	2	中村 和正
後期 月曜日 17:30~20:00	医療倫理学	Medical ethics	2	長田 怜
後期 水曜日 17:30~20:00	遺伝子医療と再生医療	Gene medical treatment and regenerative medicine	2	才津 浩智
受講者に別途連絡(がんプロ)	次世代腫瘍医学特論	Special Topics in Next-generation Oncology	2	新村 和也
受講者に別途連絡(がんプロ)	がん予防医学特論	Special Topics in Preventive Oncology	2	尾島 俊之
受講者に別途連絡(がんプロ)	新規がん治療特論	Special Topics in Innovative Cancer Therapy	2	佐原 真

大学院医学専攻（博士課程）授業計画

社会福祉事業団 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院

副指導教員一覽

(聖隷浜松病院)

病院	氏名	診療科等
聖 隷 浜 松 病 院	渡邊卓哉	総合診療内科・副院長
	橋本大	呼吸器内科・院長補佐
	細田佳佐	消化器内科・部長
	三崎太郎	腎臓内科・部長
	柏原裕美子	内分泌内科・部長
	内山剛	脳神経内科・院長補佐
	杉浦亮	循環器科・部長
	小出昌秋	心臓血管外科・院長補佐
	安達博	産婦人科・部長
	村越毅	産科・部長
	稲永親憲	脳神経外科・部長
	中村徹	呼吸器外科・部長
	増井孝之	放射線科・副院長
	滝正徳	整形外科 足の外科・部長
大月寛郎	病理診断科・部長	

令和8年度大学院授業実施計画

授業科目名	授業実施方法等	単位数	備考
総合診療内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	その他(A)については、聖隷浜松病院所属の副指導教員を置く場合に履修する。
総合診療内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
呼吸器内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
呼吸器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
消化器内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
消化器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
膠原病学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
膠原病学実習	実習年間120時間×3年間	8	
腎臓内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
腎臓内科実習	実習年間120時間×3年間	8	
内分泌代謝学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
内分泌代謝学実習	実習年間120時間×3年間	8	
脳卒中学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
脳卒中学実習	実習年間120時間×3年間	8	
神経内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
神経内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
循環器内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
循環器内科実習	実習年間120時間×3年間	8	
心臓血管外科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
心臓血管外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
外科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
産婦人科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
産婦人科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
小児科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
小児科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
小児循環器科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
小児循環器科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
新生児科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
新生児科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
脳神経外科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
脳神経外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
てんかん学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
てんかん学実習	実習年間120時間×3年間	8	
リハビリテーション医学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
リハビリテーション医学実習	実習年間120時間×3年間	8	
泌尿器科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
泌尿器科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
放射線画像診断学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
放射線画像診断学実習	実習年間120時間×3年間	8	
病理診断学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
病理診断学実習	実習年間120時間×3年間	8	
臨床検査医学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
臨床検査医学実習	実習年間120時間×3年間	8	
小児神経科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
小児神経科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
整形外科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
整形外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	

その他(A)

大学院医学専攻（博士課程）授業計画

社会福祉事業団 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

副指導教員一覽

(聖隸三方原病院)

病院	氏名	診療科等
聖 隸 三 方 原 病 院	横村光司	呼吸器内科
	岩渕昌康	内分泌代謝科
	白井憲司	小児科
	杉浦剛	腎臓内科
	藤田博文	副院長（消化器外科）
	西村克彦	精神科
	川路博史	脳神経外科

令和8年度大学院授業実施計画

授業科目名	授業実施方法等	単位数	備考
ホスピス科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	その他(B)については、聖隷三方原病院所属の副指導教員を置く場合に履修する。
ホスピス科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
リハビリテーション科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
リハビリテーション科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
外科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
緩和支援治療科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
緩和支援治療科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
肝臓内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
肝臓内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
呼吸器内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
呼吸器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
産婦人科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
産婦人科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
耳鼻科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
耳鼻科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
循環器科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
循環器科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
小児科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
小児科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
消化器内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
消化器内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
心臓血管外科科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
心臓血管外科科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
神経内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
神経内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
腎臓内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
腎臓内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
総合診療内科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
総合診療内科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
内分泌代謝科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
内分泌代謝科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
脳神経外科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
脳神経外科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
脳卒中科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
脳卒中科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
皮膚科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
皮膚科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
病理診断科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
病理診断科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
放射線科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
放射線科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
麻酔科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
麻酔科学実習	実習年間120時間×3年間	8	
臨床検査科学セミナー	セミナー年間120時間×3年間	12	
臨床検査科学実習	実習年間120時間×3年間	8	

その他(B)